

研修会報告

令和6年7月20日

文責：遺伝子・染色体部門長 青山 弥生

研修会テーマ「遺伝子検査室に聞く！遺伝子検査の実際と院内導入のメリットは？」

開催日時 令和6年7月20日（土）13：00～15：00

会場 Zoom ウェビナーによる Web 研修会

司会 仙台医療センター 臨床検査科 佐々木 香穂

生涯教育点数 専門教科 20 点

参加者 会員参加者 27名

13:00～13:50

講演1 「東北大学病院検査部での遺伝子検査～造血器腫瘍を中心に～」

講師：東北大学病院 診療技術部臨床検査部門（検査部）

真山 晃史 技師

13:50～14:40

講演2 「院内遺伝子検査と外注検査-当院でできることできないこと」

講師：宮城県立がんセンター 臨床検査技術部

竹内 美華 技師

14:40～15:00 質疑応答・ディスカッション

15:00 終了

内容

今回は、遺伝子検査室に聞く！遺伝子検査の実際と院内導入のメリットは？」と題し、東北大学病院検査部と、宮城県立がんセンターで遺伝子検査業務に携わる2名の技師に、それぞれの病院での運用実績、院内化のメリット・デメリット、課題や外注検査との両立について講演いただいた。

真山技師には、造血器腫瘍を中心として検査室での運用を具体的な症例を提示して頂きながらお話いただき、院内導入することで臨床へ貢献できていることがよく理解できた。また、担当している技師は他の検査と兼務していることから得られる利点などを紹介いただいたが、後進の指導、内部・外部精度管理の難しさも課題であるとのことで、院内で実施している施設はどこも抱える問題であると共感する部分もあった。

竹内技師には、固形腫瘍、造血器腫瘍、微生物、がんゲノム医療と幅広くお話しいただいた。

分野を跨いでのお話は聞く機会がないため、非常に勉強になった。さまざまな変異、染色

体異常に対応するのは困難であり、外注検査との両立は欠かせないとのことであった。また、コロナ禍に導入した機器の活用は、感染症診療において大きな役割を果たすとのこと、多くの施設で参考になるのではないかと感じた。

質疑応答の中かから、いずれの施設でもさまざまな機器を駆使し、保険診療といえども採算の合う検査はなかなかないようであるが、臨床への貢献度を鑑みながら運用しておられるとのことであった。

外注検査に出すだけでなく結果を解釈し、他の検査と併せて考えられることが検査技師にも必要で、そのことが臨床と密に関わることにつながり、患者様への貢献にもつながるとのメッセージをいただいたように思う。

研修会を通じて、院内導入している施設はもちろん、外注のみのご施設においてもより理解が深まり、今後の業務に活かされていくことを期待したい。

今回も Zoom ウェビナーを用いた Web 研修会であり、参加者は多くはなかったが学生や県外からも参加頂いた。

研修会開催の課題は未だあるが、遺伝子検査にもっと関心を持ってもらえるよう工夫し活発な場になるよう研修会を開催したい。